

事態の真相——教内学部長「眼底出血」、翌日(6/4)
 地理学会(郷)へ「安静」旅行、佐藤三(教員)「痔」でドブタ
 ーストツ、翌日(6/4)直木評議員と共に天満ホテル
 「Grand-Castle」で密談、6/4、10数名の団交要
 員を残し40数名アビコ教員会館で留守待機、
 団交最大出席数30余名＝団交による「静養者」
 40数名はいかにして可能か？——これは何を
 意味するのか、大学協議会はずと中傷で
 日共＝民青を矢頭に「一般学生」を良識ある封鎖
 実力解除へ扇動している！ 文部省%

夷でワターストツメがなつた
者が其曰、ホデルで密談出来るのか
?

明らかになり、大分協議会ではデマをも
つて大衆を組織しようとしている。
次に事態の真相について述べて行
く。

彼らは留置、この杉本原野を遠く離れて、花咲の地蔵山の「花の家」へ逃げ去つたのか。

一、前回議事録確認
一、學部長報告

一、傷害事件に關する説明の件
一、人事

- この後、計算ゼター、図書、文芸会、改革等々があるが、下らないから略

我々存心の家々に、踏み込むや否や、ゲタを突つゝなけて、タタミに乗り込むとてた頼内室部長、直木四史教授の姿勢は、誰よりもな

我々は、この日、陣、文藝協會と無期限の交に安んじている。屋内の
重大事を、私、密に決めて、一部の、枕、蘭の犯罪性を告発し、救済自らの
存在も拘わっている。この緊迫した現実の情状の中で、個人が意味の如

6、4の夕方、直木、夢野、山本、佐藤三師名教授は、天病のニユー
キヤッスルホテルの505号室で、密談し、この日、40日程の教授を我
系、教職員会館に集め、10人程を国交事務局として出て、他の者こそ集
めておいていた。知らぬ間に西条監獄になつていた文部省七教員は、こ
の事を知り、怒り心頭に発して、ホテルへ直行したが、直木はいち早く
逃走、逃げ遅れた我多時教授を死して、もぬけのあらであつた。

この様に、文教授会は、まづこゝ、一部の教員を依りしめて、自らの意志を貫徹すべく、直木教授會は、徹底的な監査対策の意を三変動を行つてゐるのである。この時侯にあつて、我々文主委は無期延文文を二時中止して、60人の教員と、直木教授、教内教授、山本教授、森山教授の出席を獲得するまでは固文をしないことを決めたのである。

我々はこゝで再度協議する。我々のこゝした雪を算すと、東京教養
連が受け入れるまで、今、泊っているスルを、決して戻さない。

自らの運命は自らの手によつて切り拓かれ行く。如何なるメデイアを通じて自己の必然性を規定して行くのか？

文斗禾女